

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク

2018 年度事業報告書

2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

目次

2018 年度 総括	2
NPO 等団体活動支援事業	4
情報発信支援事業	8
地域ショップ販売支援事業	10
たんたんスペース活用事業	12
外国籍、外国にルーツのある人への支援（3 事業）	16
組織概要	24

2018年度 総括

2010年6月9日、NPO法人 京都丹波・丹後ネットワークを設立して以来、①NPO法人等ネットワーク構築・活動支援事業、②人づくり事業、③地域デザイン（収益事業）などを軸に、人と人、団体と団体（NPO、自治体、企業、行政、大学など）のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後地域の活性化をめざし、活動してまいりました。

今年度は、毎月一回のまちづくり講座を行う中で、企業、金融機関、行政、NPOが共に学び、福祉分野・環境分野などを含めたトータルなまちづくりの第一歩が踏み出せたのではないかと感じた一年でした。



今年度の概要

今年度においても、京都府など行政の受託事業がほとんどない中で、どのように中間支援としての役割を果たそうかと考えるなか、引き続き児童館の支援を行い、それが次につながる課題の発見とさらなる支援につながっていきました。

一つには外国人に対する防災支援、そしてもう一つは子どもたちを中心に高齢者、外国人など多様な人達が集まれる場の創出です。

また、まちづくり講座を通して多様な人たちが出会い、そこから何かが生まれていくことを実感した年でもありました。

さらに収益事業としては、地域デザイン事業（情報発信支援等）を地域で活躍する農業を主体とする会社や組合を中心にHPの作成などを行ってまいりました。



今後の活動

次年度においては、地域をデザインする事業（情報発信支援）や外国にルーツを持つ親子の支援などを継続発展する中で、増加する外国人の支援や高齢者の介護等の問題、子どもの貧困問題、障害のある人の環境整備などを地域の課題としてとらえ、地域を中心に行政や大学、NPO、企業がそれぞれの役割を果たしつつ、一体となって共に支えあう地域づくりを目指していけるような支援が出来ればと考えています。

その一つの形として、「防災」をキーワードに次年度の中心事業である地域の防災、NPOの防災、外国人の災害時支援を京都北部の各地域で実践していきたいと思っています。

また、設立から9年経過し、昨年に引き続き組織を積極的に見直していきたいという思いから、パナソニック株式会社「NPO/NGO サポートファンド for SDGs（国内助成）」を受け、これを機に組織の目的・目標、ガバナンス、コンプライアンス、情報公開など、一つひとつの項目について、自己評価と改善を行う一年にしたいと考えています。

財政面について

様々な活動を行うに当たり、やはり大きな課題は財政面（資金の確保）です。ここ数年のように人件費の出る助成事業がほとんどない中、人を雇用し税金や社会保険等を支払っていくことはとても困難であり、なんとか事業を継続するためには収益事業中心にならざるを得ず、本来のミッションとのバランスをいかにとっていくかについても考えざるを得ません。

さらに、小さなしかも中間支援中心のNPOでは、行政からの委託事業や補助金などは難しく、ともすれば競合してしまうこともある中で、民間の助成を受けられるだけの力を持つこと、さらには他団体にも助成金情報を流すだけでなく、提案できるような力を持つことが重要だと思っています。

また、クラウドファンディングなどの新しい資金調達も考えていく必要があると思っています。

NPOを法人として雇用を継続しながら運営することは確かにとても難しいことですが、その中で生まれる人との出会いがきっかけとなり、地域に新しい風を吹かせることが出来るという確かな何かが見えてきているように思います。

今年度においては、ろうきん様の笑顔プラスの寄付先団体に選んでいただき、ご協力を得ながら事業を進めることができましたこと、そして社会貢献預金（笑顔プラス）の預金者の皆さまの温かいご支援に感謝し、地域のために何ができるか、何が必要かを感じながらいっそう活動を進めていきたいと思っています。



NPO 等団体活動支援事業

事業の種別…NPO等支援（NPO法人、自治会、市町村等）



組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ

〈概要〉

• NPO 活動等支援事業

○NPO 法改正に伴う支援 相談（1回）

内容：貸借対照表の公告に関する定款変更の方法等。

○助成金等申請支援 申請補助・相談・フォロー（7回）

内容：子どもへの支援活動や農事組合などからの依頼により、助成金情報や申請の方法などを支援またはアドバイスした。

○マネジメント支援 労務管理相談（1回）

内容：NPOのスタッフから、労働環境等についての相談を受けた。

○人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり

内容： 北近畿地域連携会議、京都府北部地域大学連携機構の理事などを行い、その中でネットワークをつくっていくとともに、たんたん X 交差点や外国人支援などの事業を通して、児童館や日本防災士会など多様な主体と互いに連携していく仕組みづくりを行う。

・災害復興支援NPOリレーションズ実行委員会メンバーとしての活動

活動趣旨近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の設立及び充実を図る。

活動內容

「災害時連携NPO等ネットワーク」設立及び充実を図るため、会議への参加7回

○災害時連携NPOネットの活動を知ってもらうため「NPOを味見してみよう」を開催

日時 2018年8月5日（日）11:30から16:00

場所 市民交流プラザ福知山3階市民交流スペースとクリッキングルーム

内容 森本隆氏（京都B B Q協会）による防災B B Q（防災料理づくりをツールとしたワークショップ）、松田規氏（福知山市社会福祉協議会会长）による事例発表「平成30年7月豪雨水害レポート」、NPO見本市（出展団体の活動紹介）

○ B C P (事業継続計画) 講座

日時 2018年9月29日(土) 13:00から16:00

会場 キャンパスプラザ京都・京都大学サテライト講習室

牧紀男氏（京都大学防災研究所教授）によるBCPに関する講義とワークショップ

○災害は常にやってくる 平成30年度災害状況及び支援活動報告会

日時：2019年2月2日（土）13：30から16：30

会場 ひと・まち交流館 京都 第4会議室

大山知康氏（弁護士/公益財団法人みんなでつくる財団おかやま代表理事）による基調講演と事例発表、パネルディスカッション

○緊急災害対策

発動① 大阪北部地震（2018年6月18日から8月16日）

発動② 平成30年7月豪雨（2018年7月9日から8月16日）

発動③ 台風12号（2018年7月29日から8月16日）

発動④ 台風20号（2018年8月23日から8月27日）

成果と課題

成果としては、なかなか進まない防災研修を楽しんで行えるように工夫し、より多くの方に防災意識を感じてもらえたこと、さらに、企業では当たり前になっている、災害後の事業継続計画（BCP）をNPOにも取り入れるきっかけを作れたことである。今後はさらに防災研修やBCPをそれぞれのNPO又は地域が行えるよう支援していくことが私たちNPOのミッションであると考えている。

また、今年度は北部では豪雨による被害が多発し、福知山市を始め多くの場所で災害ボランティアセンターが開設された。幸い避難所が長期に渡って開設されることが無かった為にNPOが持つスペシャルニーズを活用する場面はなかったが、今後の事を考えると地域コーディネータの育成は急務と言える。



・商店街アイデア実現プロジェクト事業

総事業費：261,572円

うち補助金等：259,000円（うち京都府194,000円 八島商店街65,000円）

○事業の名称

商店街プレミアムナイトストリートダンスバル

○実施日

2018年11月3日（準備・片付け等前後2日）

○実施場所

東舞鶴商店街八島通り

○事業内容

直径1.5メートルのミラーボールを商店街に吊るし、横から舞台照明などに使う機材で本格的な照明を行い、子どもから中高年までが楽しめる、商店街を舞台としたディスコナイトイベントを実施した。

9月から2回の全体打ち合わせと、照明を担当される方との打ち合わせ1回を経て、11月2日にミラーボールの取り付けと機材の設置、3日の17時半にディスコナイトをスタートさせた。終了は20時半、パフォーマンス賞の表彰で幕を閉じた。

だるま祭りの企画で仮装をされた方たちもたくさんダンスパフォーマンスに加わっていただき、まさに子どもからディスコ世代まですべての人が楽しんでいただけるイベントになったと思う。

当日のSNSにはその時の写真や動画が溢れ、また行きたいという声や知らなかった、今度は宮津の方にも広報してという声が上がっていた。

○成果

シャッター通りと言われるようになった商店街に、世代を超えた人が一堂に集まる場を創出できたこと。

- ・光と音楽が商店街を異次元の世界に変え、みんながワクワクするような時間を創れたこと。

- ・商店街の新たな役割（創造の場・出逢いの場など）を考えるきっかけになったこと。



その他支援事業

○Webページ及びFacebookページによる情報発信 (HPアドレス: <http://www.kyoto-tantan.net/>)

Webページの内容：新事業や事業報告、事業計画などの基本事項を掲載

Facebookページの内容：NPO法の改正内容、NPO主催のイベント、支援NPOの情報など日々の話題を中心に情報発信



支援事業全体を通して

事業成果 :

- ・ 当初京都府の受託事業という形で財源を得て行ってきた支援事業も、ここ数年そういった形の受託事業が無くなったことに加え、時代の要請と共に企画内容の提案やネットワークづくり、コーディネートなどを主体としたものに変わってきたが、情報発信支援や会計実務については NPO 法改正後、未だに法人としての責務（所轄庁への報告・法務局への登記・納税・社会保険加入等）を果たしていない団体も多くみられる。今後民間の助成金を得るうえでも事業を継続して行ううえでも、NPO として信用を得るための組織診断・組織改革は必須となり、支援事業の重要性は増してきているように思う。
- ・ また、法改正などに伴う実務が理解されていない NPO 法人も少なくないため、HP などを通して改正のポイントや実務などを掲載するとともに、相談があれば応じるようにしている。
- ・ 引き続き、府やパートナーシップセンターなど行政機関が行う支援と役割を明確に分け、地域で重要な活動をされている NPO（自治会なども含む）が十分力を発揮できるよう、受益者である市民を意識した支援を行っていきたい。

反省点、改善可能な点、課題など :

- ・ 課題は、昨年度に引き続き、NPO 等支援予算が立てられない中で、今までの支援をどのように継続していくか、また、これから必要とされる支援をいかに早く察知して実効性あるものにできるかだと考えている。その中で、NPO などの支援については特に情報発信、助成金申請、分析、コーディネートに力を注ぎ、さらには非営利組織の評価を意識した事業展開を考えていく必要がある。また、京都北部（とりわけ福知山）の未来にとって必要な事業を自ら作り出すことも考えていかねばならない。その中で、同じ地域の NPO 法人はもちろんのこと、きょうと NPO センターや日本 NPO センターなどの協力も得ながら、NPO 同士の連携や NPO 法人のさらなるレベルアップを目指したい。

情報発信支援事業（収益事業）

概要

収入：932,000 円

1 事業の趣旨・特徴

事業への想い

地域（企業）情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、住みやすい地域をつくり、地域経済の活性化を促す。
さらに、地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

事業背景

【京都北部の課題と事業の背景】

・京都北部は海と山を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない。
また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのHPを持っていても、活用・更新されないままであったり、スマホ対応されていないなど、現状に即きなものが多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。

とりわけ、NPOにあってはHPなどの情報発信手段を持たないところも多く、素晴らしい活動をしていても、それを利用者などに知ってもらえないケースが数多く見受けられる。

特に福祉関係や人権などのNPOについては、活動が知られていないために利用機会を失い、利用者の命を左右することも多く、今後行政の財源や職員数が減少していくことを考えると、一つひとつの活動を周知することはとても重要になってくる。

2 事業の概要等

●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン

【特徴】

HPやSNSをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動内容や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につなげるよう、①コンテンツの内容（何を誰に何のために発信したいのかなど）②更新のしやすさ③SNSとの連動④スマホ対応⑤魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のHPやFBページ、ロゴ等を作成

【年度実績】

- 地域活動団体・企業等のHP作成、会員ページ等追加、年間サポート…3件（642,000円）
- HP・フェイスブックページ更新指導・補助…7件
- ふるさと納税返礼品サイトへの更新補助…1件（年間契約 120,000円）
- じやらん掲載イベントの連絡調整等…1件（年間契約 120,000円）
- HP用写真撮影…1件（50,000円）
- ポスター作成…1件



農事組合法人かわい
<https://kawai-kyoto.net/>



株式会社 Season
<http://season-vege.com/wp/>



MAIスター
<https://shop-maizuru.jp/>
会員ページ等追加



農事組合法人かわい
米販売用ポスター

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名

4 事業の成果と課題

今年度においては、地域の持続のために作られた農事組合法人のHPや舞鶴市の福祉事業所の会員サイトの作成、チラシの製作、福知山市の移住HP用写真撮影などによる情報発信支援を行い、コンテンツ作りについても支援を行ってきた。

また、ヒアリングや情報発信を行う中で、新たな出会い、人との交流、ネットワークの構築、仕事を頂けたときの喜びなど多くの財産が得られた。

まだまだ継続的に収益を得られるまでには達していないが、団体目線企業目線ではない利用者様、お客様の目線に立った提案を続け、少しずつ信用・信頼を得ることで事業を軌道に乗せてていきたい。

地域ショップ販売支援事業（収益事業）

助成金：「いのちの里京都村応援基金」100,000円

売上収入：538,290円 うち当NPO収入123,720円（2018.4～2019.3 11か月）

1 事業の趣旨・特徴

事業への想い

福知山の旧3町など過疎が心配されるなか、地域の特産品をそれぞれの地域のアンテナショップとして月1回販売することで、市街地の人にも商品を知ってもらうきっかけにする。
また、地域の空きスペースを活用して、地域に賑わいを取り戻すことにもつながる。

事業背景

【事業の背景】

・三和地域や大江地域などでは、「夕焼け×マーケット」「鬼和味」などが地域ショップとして特産品を販売されているが、それをより多くの方に知っていただくためのきっかけになるのではという思いと、事務所の大家さんが空きスペースを活用して何か地域のために出来ないかという相談に応じる形で月一回の開催を決めた。開催からこの3月で1年と6か月になる。

2 事業の概要等

●月一でアンテナショップ「たんたん市場」を開催⇒地域ショップの募集、取りまとめ、広報等を担当 【特徴】

それぞれの地域の特産品の物語（こだわりや伝統など）を、SNSやちらし、新聞記事などを活用して言葉にし、商品をただ販売するのではなく、地域の思い、作り手の思いまでをも販売する。
アンテナショップ同士の交流により、新たな商品やターゲットのヒントを得る。

【期間・日時】

毎月第4金曜日 14:00～17:00

【商品】地域の農産品から加工品まで

【広報】ちらし、新聞記事、SNS他



助成金額：100,000円

期間：2018年7月から2019年6月まで（継続中）

【活用と効果】

1. たんたん市場会場前の道路わきに看板を設置して広告宣伝
⇒マグネット式の看板を設置し、雨にも対応できるものとした。
2. 隠れた特産品を探しだし旧三町以外の出店者も増加させる
⇒京丹後の特産品（昔から続く醤油屋など）、薬膳の考え方を取り入れた食材等の販売を開始

3. 出店者による交流会を年2回開催し、情報交換や課題の洗い出し、工夫の共有を図る
⇒当初2回を予定していたが、特に若い出店者が増えたことから、市場の終了後には毎回みんなで反省や今後の活かし方、新たなイベントなどを相談するようになり、それぞれの出店者が他の出店者に依頼して、イベントを開催するなどにもつながった。
たとえば①売れ筋商品情報 ②包装の仕方、説明の仕方 ③値段のつけ方 ④味の工夫 ⑤夕焼け×マーケットへの鬼和味、シャルムの出店など
4. 販売に関わる人員を増やし、商品に対する丁寧な説明が出来るようにする
⇒当初大学生をアルバイトに起用するつもりであったが、予算の関係上新たな雇用は出来なかった。一方若い出店者の増加が刺激となり、出店者が積極的に商品に対する説明を行うようになった。
5. レジスターを導入することにより、待っていただく時間を軽減するとともに、大学生等誰にでもレジを任せことが出来るようになり、その分、商品説明などに人を配置することが可能になる。
⇒レジスターの導入により、客を待たせることも少なくなり、スムーズな運営が可能になった
6. 年2回、イベント（夏祭り・収穫祭を想定）を開催し、新聞などに広告を出すことで、より多くの人に「たんたん市場」を通して出店者や商品のことを知ってもらう。
⇒夏にはかき氷、冬にはもちの提供、3色ぜんざいなどの振る舞いなどを行い、徐々にリピーターの数も増加してきた。新聞には記事として毎月掲載していただき、それを見てきてくださる客も増加した。
7. 事務所前の灯りのないスペースを活用して行う市場であり、10月くらいからは夕方になると少し暗くなるため、灯光器を設置することにより、市場が行われていることを知らせる効果及び明るく活気あるイメージを演出できる。
⇒福知山で活動されている照明のプロの方にアドバイスをいただき、灯光器を設置

【その他の効果・今後の活動】

- ◆若い出店者が増えたことにより、SNSなどの媒体を通じてより多くの人（多くの客層）に知ってもらえた。
- ◆大江や三和それぞれの良さを活かした商品を発信できたことで、毎月同じ商品を求めてきてくださる客が増加、毎週できないのかという声も多くなってきている。
- ◆売上は徐々に伸び、直近では、助成金活用前と比べ1.2倍から時には1.5倍近くまで売り上げが伸びている。
- ◆当初、若い主婦層をターゲットにしていたが、高齢者、特に一人暮らしの方が弁当や総菜を求めて来店されることが多くなり、この地域の状況を考えたとき、高齢者の支援としての「たんたん市場」にしていくことが求められているのではないかと感じている。
- ◆一方、若い出展者の増加により、健康志向の主婦層にもターゲットをおき、新たな企画を共に考え実現していきたい。

【写真】



看板



灯光器



レジスター

たんたんスペース活用事業

収入：158,500 円（参加費）

10,000円（会場使用料）

1 事業の趣旨・特徴

事業への想い

まちづくりを推進していくためには、様々な人が集まり、情報を共有し合い、話し合う場が必要となる。

市街地にそういう場が作れたことは未来のまちづくりに必ず通じると考えている。

私たちもこの場をより活用しやすいものとして、より多くの人、団体に使っていただけるよう発信していきたいと思っている。

事業背景

【事業の背景】

当NPOの隣の空き部屋を、大家さまのご厚意で使用させていただけすることとなり、どのような活用方法が出来るかを話し合い、親子への支援・高齢者支援・講座などの開催を含むまちづくりの拠点として活用していくことにした。

2 事業の概要等

- 毎月第2金曜日はまちづくり講座&交流「たんたんX交差点」

⇒當 NPO 主催事業

【內容】

毎月まちづくりに関するテーマを設定し、専門の講師をお招きして講座を開催。前半は講座、後半は参加者で食事を取りながら交流。

【期間・日時】毎月第2金曜日19:00~21:00(計11回)

【広報】HP、FB ページ、ちらし、口コミ

回	テーマ	講師	参加者	ちらし	備考
2	4月 医療と包括ケアから考 えるまちづくり	岡本 悅司 福知山公立大 学	14名		

3	5月 多様な主体による未来 志向のまちづくり	平尾 剛之 きょうと NPO センター 統括責任者	14名		
4	6月 地域の活性化は地域の 中小企業の活性化にあ り	田島 慎也 中小企業家同 友会 事務局 長	16名		
5	8月 防災とまちづくり	牧 紀男 京都大学防災 研究所 社会防災研究 部門長	16名		
6	9月 福祉とまちづくり	武田 知記 京都府社会福 祉協議会事務 局長	13名		
7	10月 徳島県にみるまちづく りの新しいガバナンス	梅原 豊 京都府立大学 公共政策学部 准教授	15名		
8	11月 むら創り対談 井上吉夫 VS 土佐祐司	井上吉夫 土佐祐司	18名		

9	12月 子どもと共に育ちあえるまちづくり	村井 琢哉 山科醍醐子どもの広場理事長	42名		労金様との協働により、市民プラザ福知山で開催
10	1月 これから地域とまちづくり	森田 賢 福知山市役所	17名		
11	2月 明智光秀とまちづくり ～大河ドラマ効果の明と暗～	渡辺 武尊 一夢庵株式会社 大旦那	14名		
12	3月 多文化共生とまちづくり	大谷 杏 福知山公立大学准教授	9名		

【写真】



成果と今後の取り組み

多種多様な職種、世代の参加者により、幅広い視野と様々な視点で、データなども確認しながら「まちづくり」を学び、論じることができた。その中で、このまちに足りないものは何か、誇れるものは何か、このまちが10年後30年後どうあるべきかなど、目指すべき方向性が明確になったと感じている。

今後はこの講座で得たことをどのようなメンバーとどのような形で実践に移していくかという次のステージに進んでいきたい。

●毎月第1水曜日はふくちやま CAP の「つながるーむ」

⇒場の提供と情報発信支援、具体的にはチラシの作成及びF B ページ等での情報発信支援

【内容】

ふくちやま CAP の活動。子育ての悩みを話したり、相談できる場を月1回儲け、偶数月はワークショップ形式で、奇数月は個別相談日として活用する。

【期間・日時】2018年3月～ 毎月第1水曜日 10：00～12：00

【広報】HP、FB ページ、ちらし、口コミ



外国籍、外国にルーツのある人への支援（3事業）

事業名：①②「NPOどんどこプロジェクト」×2

③福知山で暮らす外国人のための「災害時研修&心に寄り添う傾聴講座の開催及び防災BBQ」

予算総額：①②200,000円×2か所 ③460,000円（計860,000円）

受託期間：①②平成30年7月1日から平成31年2月28日まで

③平成30年12月1日から平成31年11月30日まで（事業継続中）

1 事業の趣旨

事業①「NPOどんどこプロジェクト」下六人部児童センター

日本NPOセンター助成事業（児童館NPO協働事業）

テーマ：～子どものミカタ・どんどこひろば～

＜事業の目的＞

2年間の継続した取り組みやそれぞれの環境の中で、子どもたちは大きく成長し、力をつけてきた。今までの成果を元に、子どもたちが身に付けてきた力を発揮しながら“楽しむ場”、“楽しんでもらえる場”をつくり、次の世代へとつなげていくことを新たな目的とする。

人とのかかわりが希薄になりつつある中、事業に企画段階から参加することを通して成功体験を積み重ねたり、感謝される（ありがとうを言ってもらえる）体験をする中で、自己肯定感を高めるとともに、普段接することが少なくなっている高齢者の方々との交流などを通して、高齢者などから遊び（卓球や昔からの遊びなど）や生活の知恵を学んだり、高齢者など地域の人たちに対しておもてなしをするなど、いっしょに遊びながらつながりを持たせていく。

また、子どもをとりまく課題が多様化する中、ひとり親家庭や貧困問題にも目を向け、遊びを通して、地域の中での居場所やつながれる場を作っていく。

＜問題意識＞

1. 地域の中でも人と人とのかかわりが希薄になり、世代間での交流の機会が少ないとことなどから、人との付き合いやコミュニケーションがうまくとれず、学年の違う子どもとの交流の機会、付き合い方を覚える場も減ってきている。
2. 自分が必要とされたり感謝されたりする体験の少なさからくる、自己肯定感の低さを感じる。
3. 自分たちで遊びや楽しみを作ることが減ってきている。
4. 個々には成長を感じるが、誰かと一緒にになって力を合わせ協力する力の弱さを感じる。

＜事業の内容＞

・どんどこカフェ

⇒ 子どもたちが主体となって、地域の高齢者の方々をもてなす形で交流や様々な遊びを企画・実施する。その中で、感謝される喜びや必要とされる喜びを感じ、自己肯定感を高めていく体験ができるようにする。

・秘密基地お泊り作戦会議

⇒ 地域の近隣施設を利用し、寝食をともにしながらの企画会議・反省会を行う。友だちといっしょに泊まりで料理を作ったり、どんどこカフェやごちゃまぜ交流会の作戦会議をしたりする中で、協調性を養ったり自分のためだけではなくみんなのために何かをするという体験をする。

また、地域の近隣施設を利用することにより、自分たちの住んでいる町を身近に感じたり、良さを知り、好きになれるきっかけ作りとなるようとする。

・ごちゃまぜ交流会

⇒ 外国にルーツを持つ親子も、隣接する福祉会館で活動する高齢者も地域の人たちもみんなごちゃまぜで料理を作り、遊びを考え、みんなで楽しむ交流会を実施し、互いの価値観や文化などを受け入れ、協力し助け合える関係づくりを構築する。

参加人数：

8月 どんどこカフェ…21人（スタッフ等含む うち子ども4人 高齢者7人）

10月 秘密基地で作戦会議… 9人（スタッフ等含む うち子ども4人）

11月 どんどこカフェ…16人（スタッフ等含む うち子ども4人 高齢者4人）

12月 ワールドランチ…50名超（子ども約半数、フィリピン、中国などからも参加）

※ 南佳屋野児童館との共同開催

1月 どんどこカフェ…24人（スタッフ等含む うち子ども7人 高齢者8人）

＜成果＞

子どもたちの発想力や実行力を生かせた。自分たちが作ったもので喜んでくださる高齢者の方々と触ることで、子どもたちも認められる喜びを感じることができたと思った。懐かしい遊びを共にすることで、新しくお知り合いになれ、地域の中で出会った時に、お互いに声を掛け合える関係性が生まれた。

＜課題＞

子どもたちが自分たちで計画して実施する事の楽しさや難しさを少しでも感じてもらえたと思うが、今後は下級生にも参加してもらいながら、地域の困り事を解決するために自分たちで考え企画し、実行する事を学んでいって欲しい。

＜子ども達の感想＞

- ・頑張って作ったお菓子を「おいしい」と言ってくださったのが嬉しかったです。
- ・また、今日のようなことをしたいです。
- ・折り紙やけん玉を教えてもらって、とても楽しかったです。嬉しかったです。



事業② 「N P O どんどこプロジェクト」南佳屋野児童館

日本 NPO センター助成事業（児童館・N P O 協働事業）

テーマ ～世界につながる雀っ子の遊び場～

2018年7月1日～2019年2月28日

＜事業の目的＞

南佳屋野児童館のある福知山市雀部地区には、“様々な外国”にルーツを持つ人たちが多く住んでいる。しかしながらせっかく国際色の豊かな地域に暮らしているのに、子どもたち同士の交流、親子と地域の人たちとの交流がうまくいっているとは言えない。今回の事業を通して、地域で暮らすすべての人たちに、①世界にはたくさんの国がある事、②それぞれの国にそれぞれの文化や習慣があり、違いがあるたくさんの人たちで世界が成り立っていることを感じてもらいたい。日本人も他の国にいけば、外国人になる。誰もが外国人であることを体感してほしい。

この地域に暮らしているから、日本の文化だけでなく、異文化にもふれあい、外国を身近に感じ事ができる、そんな“地域の遊び場”を目指す。

＜問題意識＞

1. 外国にルーツのある子どもがこんなに身近に居住しているのに、日本育ちの子どもたちが、自分たちとの違いをどう受け止めてよいかに困っている様子があり、コミュニケーションがうまく出来ないことで、お互いに大きな不安やストレスを感じている現状がある。
2. 外国籍の親は、さまざまなことに戸惑いながら子育てをしているが、ことばの違い、文化の違い、交流のきっかけがないなどの理由で、地域の人たちに助けを求めることが出来ない。
3. せっかくの国際色豊かな地域に暮らしながら、その良さが活かし切れていない。

＜事業の内容＞

- ・地域みんなで奉仕作業&おにぎりチャレンジデー…2回（22名+27名）

⇒ 地域の奉仕作業を地域の人たちとともに実施し、作業が終わったあとはみんなで一緒におにぎりを食べる。おにぎりは、子どもたちが、『お米を洗うことからすべて行い、自分で作ったものを食べる・地域の人にも食べてもらう』体験をする。その事を通して生きる力を養う。

地域の作業を通して、これまで関わりあえなかった地域内交流がスムーズに実施できるし、子どもたちはこれらの体験を通して生きる力を養うことも出来るし、感謝されることを積み重ね、自尊感情を豊かにしていくことにもつながる。

- ・どんなもんだ！田舎体験（留学生と地域の子どもたちとの交流）1泊2日

参加者見送りの地域の方や子どもたちもあわせ80名程度

⇒ 都会に住んでいる留学生を福知山に招き、児童館の子どもたちと福知山公立大学の先生・学生とで、1泊2日の夜久野田舎体験を行った。内容は、どろんこドッジボール、大釜風呂、野菜の収穫、調理、キャンプファイヤーなど。留学生と外国にルーツを持つ子ども、地域の子どもがグループになって2日間を助け合いながら過ごすことで、①言葉が通じなくても人は助け合える、②理解し合える、③楽しい時間を共有できる、を体験した。

- ・小さな地球村の小さな体験 3回

⇒ 地域に居住する外国にルーツのある家族もみんなで、それぞれの国の文化や習慣を学び、各国の料理を楽しんだ。

1 1月 4 日 (日) カマヤンパーティー… 20 名

1 月 27 日 (日) ボリビア料理&子供たちとベトナムからの技能実習生との交流… 30 名

2 月 24 日 (日) 防災訓練のあとに地域の人たちとベトナム料理を楽しもう… 61 名

- ・下六人部児童館との協働で、クリスマスパーティー（ワールドランチ）も実施

＜協働先＞

南佳屋野児童館

＜協力体制＞

地域の自治会、佳屋野まちづくり協議会、人権ふれあいセンター南佳屋野会館、ふくちやま C A P 、福知山公立大学、福知山市立雀部小学校、居母山クラブ、京都府国際センターほか

＜成果＞

- ・ フィリピンにルーツを持つ人たちばかりでなく、ボリビアやベトナムなど様々な国の人たち（かつ、留学生、技能実習生など多様な立場の人たち）が参加してくれるようになり、子どもたちが自然に多文化、多言語に触れ合う環境が出来たこと
- ・ 地域の人たちが手伝いに来てくれたり、参加してくれるようになったこと

＜これまでに見えた課題＞

- ・ 日曜日は教会に行く人も多く、平日は仕事の時間が合わない、子どもの学校が終わってからでは人が集まりにくいなど、日時の設定がとても難しい
- ・ 外国にルーツを持つ人たちは、労働や留学、技能実習のために日本に来ていたり、日本人との結婚により来日するなど背景も様々で、それぞれをどのように支援していくべきか、今後の支援の在り方、体制をどう作っていくべきかが決めにくい
- ・ 事業が終わったあと、対象者たちが自分たちの意思で“場”を作っていくためにはどのような支援をすべきか
- ・ 福知山市あるいは中丹において、支援を広めていくためにはどのような方法があるか
- ・ 交通手段が公共交通機関しかなく（車を所有していないなど）、参加したくてもできない人が多いため、どのような方法があるかを検討する必要がある

＜課題に対する今後の取り組み＞

児童館という場を今までよりも進化させた形にして、子どもを中心に、他の地域の人たちも、障害を持つ人も、高齢者も、外国人も誰もが集まってこられる場にしていきたい。

そのために

- ①定期に多様な人たち（外国籍、高齢、障害を持つ人など）の交流の場を設ける
- ②地域の自治会、障害者施設、行政や大学、他のN P Oを巻き込んだ議論にしていく
- ③隣人の抱えている課題、背景などを理解して、互いに助け合う地域にするために、児童館という場を活用する

など、次のステップを様々な人・団体と共に考えていく必要がある

＜市民セクター全国会議 2018 ヘゲストスピーカーとして参加＞

日本NPOセンター主催の「市民セクター全国会議」において、分科会6「多様な人々と支え合う地域～地域の「課題」を地域の「力」へ転換する～で、南佳屋野児童館館長と共にゲストスピーカーとして発表の機会をいただく

内容：世界につながる子どもたちの遊び場～小さな地球村を目指して～をテーマに、これまでの活動のきっかけ、展開、それぞれの役割、効果などについて発表

参考 市民セクター全国会議 2018 開催報告より



プログラム一覧 開催報告

分科会6 [地域]

多様な人々を受け止め支え合う地域～地域の「課題」を地域の「力」へ転換する～

社会全体の変化に伴い、日本社会は“多様な”、そして“新たな”課題に直面しているといえます。課題を抱えている人もそうでない人も、あらゆる人が受け入れ合い、支え／支えてもらいながら共に生きる社会を、地域社会においてどう実現できるかが重要です。さらに、いわゆる「課題」や「困りごと」が、逆に地域の助け合いの力が引き出されるきっかけとなるなど、プラスへの転換を起こすためにNPOはどう関わることができるか、実践から考えます。

[スピーカー]

桜井 野亞さん（福島避難者のつどい沖縄じやんがら会 代表）
梅原 麗子さん（福知山市福祉保健部子ども政策室 南佳屋野児童館 館長）
東家 零子さん（特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワーク）

[コーディネーター]

星野 智子さん
(一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事／一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク 業務執行理事／特定非営利活動法人日本NPOセンター 理事)

開催報告：プラスの力への転換

この分科会では、地域課題や困りごと、地域の相互扶助の力が引き出されるきっかけとなる、つまりプラスの流れへの転換が生まれることにNPOをはじめ市民活動がどのような触媒的な関わりをすることができるかを考えました。

梅原さん、東家さんからは、外国にルーツを持つ家族と地域の相互理解が生まれている取り組みについてお話をいただきました。京都府福知山市には人口の1%を超える外国人が住んでいます。地域や親たちの外国籍の住民に対する無理解、無関心から子どもたちの中でも差別が生まれている、これは地域の問題でもあるのではないかと考え、児童館とNPOとがお互いの強みを持ち寄ることで支援活動が始まりました。

自治会、民生児童委員、学校、児童相談所など、多様な主体・人を巻き込み、子どもだけではなく、その周りも見て支援体制を築いていました。いまでは、異文化の人たちは地域の新しい風であり、誰もが当たり前に暮らせる「小さな地球村」という意識が地域に芽生えているそうです。



続いて桜井さんからは、東日本大震災の避難者として自らも沖縄に避難する中で、孤立したり、自殺する人がいることにショックを受け、社会福祉協議会をはじめとした地域との連携による避難者支援ネットワークづくりに取り組んだ経緯についてお伺いしました。

地域の人たちに避難者の問題を私が事化してもらうために、交流会などのコミュニティづくりを起こしたり、ボランティアとして避難者訪問活動に参加してもらったりする中で、地域で支える仕組みが生まれてきたそうです。当初、広域避難者のためにやっていたことが、地域全体のためになっていることに気づいてからは連携もより拡大していったようです。



パネルディスカッションでは、二つのテーマで議論しました。「多様な人を受け止められる地域」とはどんな姿かという点では、福知山のケースでは、NPOが主体になって地域のキーマンと問題とをつなぐことによって、地域の人が協力してくれるようになったとのことで、やはりキーパーソンや核となる団体の存在は大きいことが共有されました。

「地域の『困りごと』から地域の『力』へのプラスの転換」をどう作るかという点では、「一つの課題を入口に地域課題を掘り下げる、地域にある資源をもう一度見直してみる」「地域にいる利害関係者の関心内容を共有して、共通する将来像を描く」「今までの自分のテーマや課題では出会わなかった人たちとの出会い、気づきを意識する」の3つがキーワードとして挙げられました。

<写真>



事業③ 福知山で暮らす外国人のための「災害時研修&心に寄り添う傾聴講座の開催及び防災 BBQ」

2018年8月～2019年7月（次年度継続事業）

<事業の背景>

福知山では毎年のように水害が発生し、その際の避難場所、支援物資、どのような支援があるのかなどの情報が、言葉の壁により届かないケースが起こっている。そのような状況を、災害時研修や傾聴講座を開催し、支援体制を整えることで解決したいと考えた。

<事業内容>

○災害時における外国にルーツを持つ人たち支援のための傾聴講座の開催 4回

講師：張 善花（チャン ソンファ）先生…京都YWCA職員（多文化共生、多言語相談活動アプト）

①②回（基礎編）10月21日（日）、11月18日（日）いずれも13:30～16:00

内容：日本に住む外国人の現状、外国人が出会う様々な「壁」、支援と支援者の在り方、連携する支援者たち

参加者：延べ16名（フィリピン・インドネシア・ボリビア国籍の人などの支援者も参加）

※ 休憩時間に先生と共に日系ボリビア人の方が作ってくれたボリビア料理をいただきなど、国際交流としても活用。

③回（実践編）1月27日（日）13：30～16：00

参加者：8名

内容：多言語相談時の傾聴の実践として、多言語相談においての支援者の傾聴、外国人相談者の基本情報の確認と記録の仕方、電話、面談、同行、訪問などの場面での支援、通訳が必要な場合の方法など

④回（発展編）2月24日（日）

内容：午前中は南佳屋野児童館で張先生、地域の人やベトナム技能実習生などを交えて防災訓練を行う。当NPO協力（参加者61名 うち子ども10名 ベトナム技能実習生14名）消防署から4名来ていただき、水が手に入りにくい場合のお米の炊き方や消火器の使い方、煙の中での避難などを実践させていただいた。

昼食はベトナム技能実習生がベトナム料理を作ってくれ、先生、地域の人たち、子どもたちも交えての交流

13：30～傾聴講座

参加者：前半 参加者（ベトナム技能実習生10名 その他参加者5名）

後半 参加者8名 うち男性3名）

内容：

前半 ベトナム技能実習生から防災訓練への参加の感想 生活上、仕事上の困りごと等を傾聴

後半 実際の事例から多言語支援の在り方を学ぶ

今後福知山（京都北部）で、何が必要か、どのような組織を作る必要があるかなどを検討

＜4回の講座を終えて＞

成果と感想：

- ◆ 外国人支援の災害時の傾聴として始めた講座であるが、その前段として外国人が日本で暮らしていくうえで、どのような背景、課題を抱えているかを知り、傾聴の難しさと共に重要性を感じることが出来た。
- ◆ 講師自体が韓国から日本に来て実際に困ったこと、戸惑ったことや災害時に自身が不安に感じた経験から、支援の在り方、寄り添い方をよりリアルに学び感じることが出来た。
- ◆ 児童館という場を借りて、国際交流や防災訓練とコラボして講座を行えたことから、外国人や外国にルーツを持つ人たちの生の声を聞くことが出来、さらにボリビア料理やベトナム料理など出身国の料理を作ってくれるなど、参加者が外国人と“食と文化の交流”を体験するなかで、地域の人とも良い関係が築け、災害時などの互助、共助につながると感じている。

課題と次年度に向けて：

- ◆ 外国人への傾聴をはじめとする支援の取り組みはまだ始まったばかりであり、今後技能実習生や外国にルーツを持つ人々はますます増えることから、行政や大学などを含む多様な主体で構成する支援体制が必要になってくると思われる。

＜写真＞



张先生、紹介



ベトナムの技能実習生と



基礎講座 たんたんスペースにて



実践編

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織

概要

会員・寄付金（前年度）

正会員（1口 1,000円） 15名

寄附 144,000円



会議の開催

理事会の開催

日時 …… ①平成31年3月27日 ②令和元年5月29日

場所 …… 京都丹波・丹後ネットワーク事務所

出席者 …… ①眞下賢一、森田洋行、足立淳子（他2名）

②眞下賢一、森田洋行、森田 浩三、足立淳子（他1名）

内容 …… ①2018年度各事業報告、2019年度事業の方向性

②2018年度事業報告・決算案、2019年度事業計画、予算案等及び定款改正案

通常総会の開催（理事会に引き続き開催）

日時 …… 令和元年5月29日

場所 …… 京都丹波・丹後ネットワーク事務所

出席者 …… 眞下賢一、森田洋行、足立淳子、その他会員等（4名）

委任状 …… 3名

内容 …… 2018年度事業報告、決算決議、定款改正決議及び2019年度事業計画の説明



事務局体制

当NPOの副理事長が通年勤務。他NPOスタッフとして1名のスタッフ、臨時の業務がある場合、理事一人が応援、計3名体制で活動。また、必要あるときはアルバイトを雇用（又は会員によるボランティア）。